

2 千葉県八千代市高津団地地区

活動

高津団地自治会役員等により、団地内のこれまでの防災の取り組みに関する意識の共有化や継続的な活動に向けて考えるワークショップを実施。

地区の概要

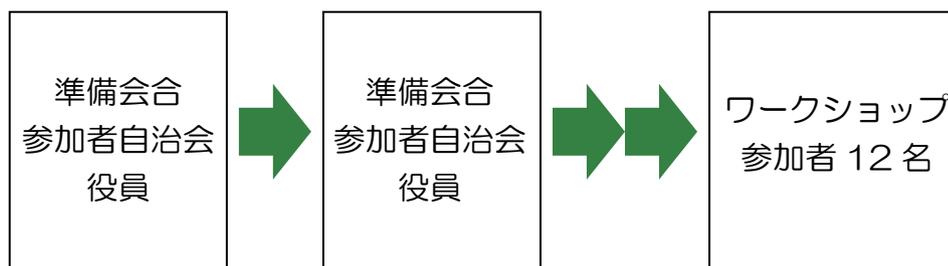
八千代市は、江戸時代には成田と江戸を結ぶ成田街道の宿場町として栄え、昭和42年の市制施行以来、首都圏でも有数のベッドタウンとして成長してきました。八千代市高津団地は、市内にある5つの大規模団地（八千代台、勝田台、米本、高津、村上）のうちの一つであり、昭和48年5月から入居が始まっています。

当該自治会は、賃貸や分譲も含め約4,200世帯が入居しており、団地内には防災組織があり、さらに市内の多様な組織等と連携した防災会議が結成され、毎年度防災訓練を行っています。

活動までの土台づくり

当団地は5つの街区に区分されており、それぞれが自主的に防災会が結成されており、おのこの自主的に活動しています。

「防災隣組」の育成促進に際しては、各街区の防災会の連携を図るとともに、自治会を中心に小中学校や、福祉士会や子供にかかわる児童員や児童館管理指導員と幅広いメンバーを収集することで、各組織の活動を越えた防災に対する取組み等における問題や課題、その対応策等のワークショップを行うことで、問題意識の共有や他の組織との連携の重要性を認識し、今後の活動につなげていくことを目的に行いました。



活動の様子

◆ワークショップ



◆発表会



活動のヒント

- ★既に種々活動している防災組織を活用しつつ、団地内で防災とは直接関係しない活動を行っている諸団体との連携を深めることで、多面的な課題に対応できる「防災隣組」の育成が可能となります。
- ★大規模団地での活動に際しては、災害時要援護者である高齢者や障害を有する人、子どもなどの安全性をいかに確保するかが重要な課題となります。
- ★防災訓練などの参加者を増やすためには、日頃からのコミュニケーションが重要です。